

上杉家秘蔵の名刀を見逃すな！

上杉家の名刀と三十五腰
 2018.1.7〔日〕－2.18〔日〕

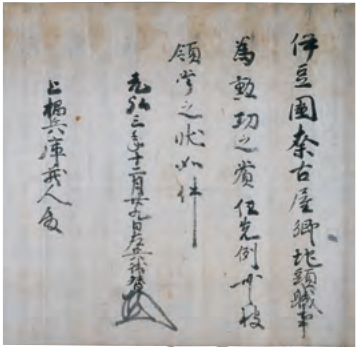
戦 国の雄上杉謙信は、現在でも最も人気のある武将の一人で、日本人なら誰もがその名を知っているのではないのでしょうか？「自らを毘沙門天の生まれ変わりと信じていた」「生涯独身を通した」など有名なエピソードもたくさんあります。

しかし、上杉家が貴族藤原氏から興り、鎌倉時代から続く名門であるということは、一般にあまり知られていません。

本展は、上杉家の約800年に及ぶ長い歴史の中で守り伝えられてきた名刀の数々に、その歴史を語る上で重要な文書や美術品などが脇を固めた、かつてない豪華な展覧会となりました。実は、上杉家は長い歴史の中で名刀を守り伝えてきた点でも、他に類を見ませんが、このような大太刀の大半は後の世に短く磨り上げられ再利用された為、当初の姿を残す刀剣は大変貴重なのです。現存する歴史資料と上杉家に伝わった刀剣を調査する過程では、様々な困難に直面しながら上杉家を存続させてきた人々の生きざまが浮かび上がりました。本展で全国から集結する名刀の



重要文化財
太刀 銘 助宗 拵附属の大切羽 松岬神社蔵
(竹に雀の毛彫が上杉家を表わす)



国宝 足利尊氏御教書(部分)
元弘3年(1333)12月29日
米沢市上杉博物館蔵

数々は、その象徴のようです。ところで、伊豆は上杉家ゆかりの土地であることをご存知ですか？伊豆の方、刀剣好きの方をはじめ、上杉ファン、歴史ファンの方も、きっと楽しんでいただけたと思います。お見逃しなく！
 (学芸グループ 志田理子)

会期中のお知らせ
 本展先行開催館(米沢市上杉博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館)の同展半券を提示でプレゼントあり。
 三島市と刀剣乱舞-ONLINE-のコラボレーション企画が市内で実施されます。詳細は三島市ホームページで発表。

雛たちに会いに —佐野美術館の雛人形さまざま

春を彩る
 佐野美術館のおひなさま
 2018.2.24〔土〕－4.1〔日〕

春 の訪れを告げる雛祭り。もともとは旧暦3月はじめの巳の日に行われた上巳の節供ですから、今の新暦に比べて桃の花にふさわしく春らしい暖かさに満ちていたことでしょう。上巳の節供は季節の変わり目に禊(みそぎ)をおこなう風習と、少女たちの野遊びが結びついたものですが、現在までつながるいわゆる「雛祭り」の主役は人形たちです。男女一対の人形とそれを取り巻く官女、従者たち。身の周りを彩る蒔絵の調度類は実際の婚礼道具を模して作られています。それらが200年余りの間、時々の流行や評判を取り入れて少しずつ変化しながら伝えられてきました。今回展示される中で一番古い雛



古今雛 伝原舟月作 江戸時代 佐野美術館蔵

は「享保雛」です。江戸時代の中頃から流行った雛で、女雛の五衣の裾が布団のように膨らみ、細面の顔と対照的です。どちらかというと澄ましたような表情ですが、わずかにほころんだ口許に得も言われぬ品位が感じられ、「表情豊か」であることがもてはやされる現代の風潮とは異なる美意識が感じられます。

江戸時代後期、原舟月作の「古今雛」は、江戸中の評判をさらいました。高貴な人の坐り方である

立膝や、浮世絵から抜け出たかのような装束、凛々しくも品格漂う表情など、それまでのややおとなしい印象の雛とは一線を画し、人々の雛への憧れを掻き立てたのでしょう。

そのほか上方発祥の御殿飾りや、近年収蔵された極小雛飾りなど、雛祭りを楽しむいろいろなかたちもわかり易く展示します。春の佐野美術館で雛たちがお待ちしています。

(副館長 坪井則子)

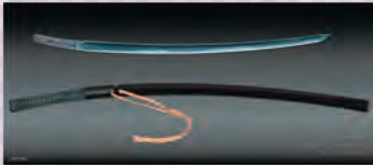


◀享保雛 江戸時代 個人蔵
 ▼御殿飾り 大正14年(1925) 佐野美術館蔵



ミュージアムショップ

米沢市上杉博物館



ポスター
 上／五虎退
 540円(税込)
 下／姫鶴一文字
 864円(税込)

てぬぐい
 「なせばなる」
 各820円(税込)



一筆箋
 短刀
 銘吉光(号五虎退)
 324円(税込)

フラットバッグ
 五虎退 写真織
 2,376円(税込)



「上杉家の名刀と三十五腰」展に合わせたグッズのご紹介です。
 米沢市上杉博物館の商品は会期中(1/7～2/18)の限定販売となります
 刀剣乱舞-ONLINE-のコラボレーショングッズも会期中販売しますので、お楽しみに!!

バビアパベル

クラフトキット日本刀(全4種)
 各1,296円(税込)
 「武将の刀(上杉謙信・織田信長)」が新たに加わり、全4種となった、ペーパークラフトのキットです。



マスキングテープ 罫
 各594円(税込)
 罫柄のマスキングテープ。「水」、「雪」に加え、黒色の「夜」が新登場!

